BOOK WINDOWS

慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

紫式部が描いた「後宮」から物語を深く読み解く鍵を探る

『源氏物語の舞台装置 ―平安朝文学と後宮』

栗本賀世子（文学部准教授）著
吉川弘文館／1870円（2024年5月）

紫式部が主人公のNHK大河ドラマによって、あらためて平安時代への関心が高まっている。本書は紫式部の生涯について概説するプロローグに続き、一般にはあまり知られていない天皇と后妃の住まいである平安時代の「後宮」について解説。さらに弘徽殿（こきでん）や藤壺・梅壺など『源氏物語』に登場する后妃の住まいが持つ役割や意味について、史実や他の平安文学作品とも比較しながら、作者が物語に込めた思いを解き明かす。詳細な考証と生き生きとした文章から、小学生時代から現代語訳の『源氏物語』に親しんでいたという著者の熱い思いが伝わってくる一冊だ。

教職員執筆の新刊

◉宮垣元（総合政策学部教授）著
『NPOとは何か―災害ボランティア、地域の居場所から気候変動対策まで』
中公新書／1078円（2024年6月）

◉長井孝紀（名誉教授）著
『渇いたカエル―カエルたちの水対策』
八坂書房／2640円（2024年6月）

◉辻幸民（商学部教授）著
『実践ファイナンス論』
慶應義塾大学出版会／2970円（2024年7月）

◉白井さゆり（総合政策学部教授）著
『環境とビジネス―世界で進む「環境経営」を知ろう』
岩波新書／1012円（2024年7月）

◉バティアーロン（看護医療学部教授）ほか著
『The Routledge Handbook of Second Language Acquisition and Listening』
Routledge／215ポンド（2024年7月）

◉鈴木二正（幼稚舎教諭）著、村井純（慶應義塾大学教授）監修
『大学入学共通テスト 情報Ⅰ 最重要POINT60』
文英堂／1320円（2024年8月）

慶應義塾この一冊

『認知症医療革命―新規アルツハイマー病治療薬の実力』

伊東大介（医学部特任教授）著
扶桑社新書／1012円（2024年7月）

世界一の長寿国である日本。高齢化が進むとともにアルツハイマー病など認知症患者も増加し、認知症対策は国家的な課題といっても過言ではない。そんな中、2023年12月に認知症治療薬として新薬「レカネマブ」が保険適用となり、大きな期待が寄せられている。著者は、治験段階からこの新薬と関わってきた認知症専門医。新薬登場によってアルツハイマー病治療がどのように変わったのか、知っておくべき基礎知識をQ&Aを交えてわかりやすく解説。アルツハイマー病予防の可能性についても一章を割いている。

（価格は全て税込／編著者の職名は原則として発行当時のもの）